

救護第24班 5月4日～5月8日 医師・横溝 博



私たちが到着した日の夜、嘔吐と下痢で6人が倒れ、石巻赤十字病院に搬送しましたが、6人とも次の日には退院してきました。保健所の調査でノロウイルスと判明するまで2日あり、その間、鳴瀬の診療所と牡鹿半島の巡回診療を行いました。

私たちが行ったところは鳴瀬診療所は10～20人の受診で、医療ニーズは減ってきていました。巡回診療で石巻市街から半島を回りましたが、入り江ごとに集落がある地形で、集落はほとんどが壊滅的な被害を受け、高いところにあった家だけが残っている状態でした。あまり大きな地震はなかったけれど、半島を回りながら、いま地震や津波が来たらどこに逃げるかを考えていました。そういう指示も出ていましたしね。

入院した熊本のチーム員からノロウイルスが検出されたことが6日に判明、石巻赤十字病院の石井先生やナースの方と相談して、鳴瀬診療所を撤収することになりました。

翌7日に撤収の準備と次の班への申し送りをして8日に帰ってきました。私は外科ですが(今回の派遣では)外科の仕事はほとんどなかった。刺し傷や切り傷など生傷を持った人はほとんど居られませんでした。

